



Fiery Hot Folders

Fiery Hot Folders アプリケーションでは、あらかじめ定義された設定に従って Fiery サーバーにファイルを迅速かつ自動的に送信することができ、複数のジョブや頻繁に使用するレイアウトに同じオプションを何度も設定する手間を省きます。

このアプリケーションを使用すると、ホットフォルダーをいくつでも作成でき、各 Hot Folders は特定の種類の出力用に個別の印刷設定プロファイルを使用できます。ホットフォルダーごとにジョブアクションを割り当てて、Fiery サーバーでのジョブの処理方法を指定し、印刷プロセスをいっそう促進できます。Hot Folder を使用すると、ファイルを作成したアプリケーションを起動しなくても、Fiery サーバーにファイルを直接送信できます。Hot Folder はネットワーク上で共有できるため、受取人のシステムにアプリケーションをインストールすることなく、簡単にジョブを転送できるようになります。Hot Folders をシステムにインストールしている場合は、ホットフォルダーを作成すると、そのホットフォルダーはハードディスクに特殊なフォルダーとして存在し、ジョブに関する情報を含むすべてのファイルとサブフォルダーを納めます。

以下の場合、フォルダーは「ホット」であるとみなされます。

- Fiery サーバーへの接続
- Hot Folders アプリケーションで監視されている
- あらかじめ定義された印刷オプションで設定されている (オプション)
- 面付け設定を使用して設定されている (オプション)
- ファイルフィルターとアプリケーション固有の形式を使用して設定されている (オプション)

Hot Folders ソフトウェアのプロセスはバックグラウンドで実行され、アクティブな Hot Folders を常時監視して印刷または処理する新しいジョブがないかどうかを確認します。ホットフォルダーに指定するジョブアクションは、Fiery サーバーでのジョブの処理方法を指定します。

Hot Folders アプリケーションは、ローカルシステムで作成されたホットフォルダーについてはすべて監視しますが、他のシステムで作成されたホットフォルダーは監視しません。

Hot Folders アプリケーションには次のものが含まれます。

- Fiery Hot Folders コンソール - ユーザーのホットフォルダーにアクセスし、場所、ジョブアクション、および各ホットフォルダーの現在の設定に関する概要情報を確認できます。
- 状況/ログ - 進行中のファイルの状態を監視し、ホットフォルダーによって処理されるすべてのファイルのログを表示できます。
- ジョブのプロパティ - ジョブのプリセットなどの印刷オプションと面付けソフトウェアにアクセスできません。
- 入力形式 - フィルターとアプリケーション固有の印刷設定にアクセスします。これらの設定は、オリジナルのアプリケーションを開いたりインストールしたりしなくても、Hot Folder を通じて設定できます。
- プリフライト設定 - プリフライトにアクセスできます。プリフライトを有効にすると、送信されたジョブにエラーがないかどうかを印刷前に確認できます。
- バックアップ/復帰 - コンピューター上に存在する Hot Folders をバックアップ/復帰します。

Fiery Hot Folders コンソール

Fiery Hot Folders コンソールを使用すると、Hot Folders にアクセスし、場所、ジョブアクション、および各ホットフォルダーの設定に関する情報を確認できます。

Fiery Hot Folders コンソールから状況/ログにアクセスできます。コンソールとは別のウィンドウが開き、ホットフォルダーによって処理されるすべてのジョブを監視および追跡できます。

コンソールには次のものが含まれます。

- メニュー - ホットフォルダー の作成および管理、環境設定の指定、およびバックアップ/復帰へのアクセスを行うためのコマンドがあります。
- タスクバー - メニューにあるほとんどのコマンドと状況/ログにすばやくアクセスできます。
- サーバーリスト - 接続されているすべての Fiery サーバーと、関連するすべてのホットフォルダーを一覧表示します。サーバーリストの折りたたみ/展開を切り替えると、各 Fiery サーバーに接続されているホットフォルダーの表示/非表示を切り替えることができます。
- ホットフォルダーの概要 - 選択したホットフォルダーの設定に関する情報を表示します。
- ジョブのプロパティ - 選択したホットフォルダーに設定されている「ジョブのプロパティ」のサブセットに関する情報を表示します。

メモ： Fiery Hot Folders コンソールには、「ジョブのプロパティ」のサブセットのみが表示されます。「ジョブのプロパティ」の詳細表示については、[ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定する](#)（12 ページ）を参照してください。

ホットフォルダーの作成

ホットフォルダーは、いくつでも作成できます。また、ホットフォルダーごとに、特定の種類の出力に合わせて印刷設定プロファイルを変更することもできます。

新しいホットフォルダーを作成するときは、次のことが適用されます。

- ホットフォルダーを Fiery サーバーに接続します。
- 新しいホットフォルダーの名前に既存のフォルダーと同じ名前を使用してはなりません。
- 共有ファイルサーバーなどのネットワークドライブに Hot Folder を作成することはできません。

新しいホットフォルダーを作成するたびに、Hot Folders アプリケーションによって自動的に下位フォルダーが作成されます。下位フォルダーのいずれかには、ジョブの印刷後に、Hot Folder に送信されたジョブのオリジナルファイルが格納されます。オリジナルファイルは、現在の日付と時間 (YYYYMDHHMMSec) に基づくファイル名でアーカイブされます。

新しいホットフォルダーを作成する

新しいホットフォルダーを作成するときは、ジョブのプロパティとその他の設定を指定します。これらは、接続する Fiery サーバーによって決まります。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、新規をクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを表示します。
- 2 フォルダー名フィールドにホットフォルダーの名前を入力します。
- 3 オプションで、説明フィールドにホットフォルダーの説明と詳細情報を入力します。
- 4 参照をクリックし、フォルダーの場所を指定します。

- 5 選択をクリックして Fiery サーバーを指定し、接続します。
詳細は、[Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する](#) (3 ページ) を参照してください。
- 6 ジョブアクションメニューから Fiery サーバーキューまたはアクションを選択します。
詳細は、[ホットフォルダーにジョブアクションを指定する](#) (4 ページ) を参照してください。
- 7 次の設定を行います。
 - ホットフォルダーにジョブのプロパティ (印刷および面付け設定) を指定するには、ジョブのプロパティメニューの定義を選択します。
 - 入力形式 (フィルターとアプリケーション固有の形式) を指定するには、入力形式の横にある編集をクリックします。
 - Hot Folder に送信されたジョブのプリフライトチェックを有効にするには、プリフライトを選択します。
メモ: プリフライトは一部の Fiery サーバーではサポートされていません。
 - 新しいジョブをチェックする間隔を設定するには、詳細設定をクリックし、カスタムをクリックして、新しい間隔を入力します。
複数パートのジョブをホットフォルダーに送信することを計画している場合、この間隔を 10 秒以上に設定することをお勧めします。詳細は、[フォルダー内にある複数のファイルで構成されるジョブを送信する](#) (10 ページ) を参照してください。

Fiery サーバーへの接続

サーバーに接続ウィンドウではサーバー接続を管理します。

サーバーに接続ウィンドウでは、次のことを行えます。

- IP アドレスまたはサーバー名で Fiery サーバーを指定する。
- 利用可能な Fiery サーバーを検索して選択する。
- お気に入りリストから Fiery サーバーを選択する。
- お気に入りリストを管理する。

Fiery サーバーに接続するとき、IP アドレスを入力すると、最初は、サーバーリストに入力した内容が表示されます。接続が認証されると、IP アドレスが Fiery サーバー名に切り替わります。

Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する

サーバーに接続ウィンドウで、Fiery Server を指定、検索、および使用可能な Fiery サーバーの中から選択してお気に入りリストに追加し、お気に入りリストから Fiery サーバーを選択できます。

- 1 サーバーに接続ウィンドウを開くには、ホットフォルダー設定ウィンドウのサーバー名フィールドの右側にある選択をクリックします。

2 サーバーに接続ウィンドウで、次の操作を行います。

- Fiery サーバーを IP アドレスまたはサーバー名で指定するには、サーバーに接続フィールドに IP アドレスまたはサーバー名を入力します。パスワードの入力を求められた場合には、パスワードを入力して OK をクリックします。接続をクリックして、ホットフォルダー設定ウィンドウに戻ります。

IP アドレスを入力すると、最初は、サーバーリストに入力した内容が表示されますが、接続が認証されると、IP アドレスが Fiery サーバー名に切り替わります。

- Fiery サーバーを検索して接続するには、検索アイコンをクリックして検索ウィンドウを開きます。検索結果の一覧から Fiery サーバーを選択し、追加をクリックし、接続をクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウに戻ります。
- Fiery サーバーに接続するには、お気に入りリストから選択し、リストから Fiery サーバー名を選択して、接続をクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウに戻ります。
- 指定した Fiery サーバーをお気に入りリストに追加するには、プラス記号 (+) をクリックします。
- Fiery サーバーをお気に入りリストから削除するには、リストで Fiery サーバー名を選択し、マイナス記号 (-) をクリックします。

既存のホットフォルダーを別の Fiery サーバーに接続する

各ホットフォルダーを Fiery サーバーに接続する必要があります。接続は、新しいホットフォルダーを作成するとき設定されます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーを選択し、アクティベート解除するを選択します。
- 2 編集をクリックします。
- 3 選択をクリックしてサーバーに接続ウィンドウを開きます。
- 4 Fiery サーバーを指定します。

ホットフォルダーにジョブアクションを指定する

ホットフォルダーを Fiery サーバーに接続するときは、ジョブアクションを指定して、Fiery サーバーでのジョブの処理方法を設定する必要もあります。

ジョブアクションによっては、Fiery サーバーでサポートされていない場合や、サポートはされているが、有効になっていない場合があります。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールでホットフォルダーを選択し、編集をクリックします。
- 2 ホットフォルダー設定ウィンドウで、ジョブアクションメニューから次のいずれかを選択します。
 - デバイス名待機 - ジョブを待機キューに送信します。ジョブは Fiery サーバーのハードディスクにスプールされ、将来の印刷のためキューに保持されます。
 - デバイス名印刷 - ジョブを印刷キューに送信します。ジョブは、受信した順番に処理後、印刷されます。

- **デバイス名直接** - ジョブを直接接続に送信します。ジョブは、Fiery サーバーが使用可能な場合にのみ処理されます。Fiery サーバーが使用中の場合は、Fiery サーバーが作動可能になるまで、ジョブはユーザーのコンピューターに残ります。ジョブは以前のジョブが終了するとすぐに、キューに待機している次のジョブが処理される前に処理されます。

直接接続に送信されたジョブを再印刷、移動、または削除するように指定することはできません。そのため、直接接続は、機密ファイルのためのセキュリティ対策となります。直接接続に送信されたジョブは、記録のために、ジョブログに表示されます。

直接接続を選択する場合、ジョブのプロパティは無効で、プリフライトは利用できません。

- **処理後待機** - ジョブを処理した後、処理済みジョブを以降の印刷のために待機キューに配置します。
- **印刷後待機** - ジョブを処理および印刷した後、再印刷または将来の使用のために、処理済みジョブを待機キューに配置します。
- **印刷後削除** - ジョブを処理および印刷した後、処理済みジョブを削除します。ジョブは印刷済みキューには表示されません。
- **プルーフ印刷** - ジョブを処理して 1 部印刷します。このジョブアクションは、ジョブで呼び出された部数を印刷する前に、ジョブ出力を確認する際に役立ちます。
- **送信順印刷** - ジョブを受信した順に処理および印刷します。このジョブアクションは、連続して印刷しなければならないジョブに役立ちます。

ホットフォルダーの環境設定を指定する

すべてのホットフォルダーに適用する環境設定を指定できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、**編集 > 環境設定** (Windows の場合) または **Fiery Hot Folders > 環境設定** (Mac OS の場合) を選択します。

- 2 次のいずれかまたは複数の環境設定を指定します。

- **単位** - Fiery サーバーが面付けをサポートしている場合は、Fiery Impose で使用するデフォルトの測定単位を設定します。
- **面付けテンプレート保存場所** - Fiery サーバーが面付けをサポートしている場合は、面付けテンプレートのデフォルトの場所を設定します。
- **ジョブを確認する間隔** - 新しいジョブを確認するデフォルトの時間間隔を設定します。間隔を長めに設定すると、Hot Folder で大きなファイルや複数のファイルで構成されるジョブ (CT/LW、DCS 2.0 ファイルなど) を処理するときに発生する可能性がある問題を回避できます。

メモ: 特定のホットフォルダーの設定で、デフォルトの時間間隔を変更できます。

- **オリジナルファイル保存場所** - オリジナルファイルをアーカイブする場所を指定します。デフォルトでは、オリジナルファイルは、ホットフォルダー内に自動的に作成される下位フォルダーにアーカイブされます。別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。
- **原稿ファイル消去** - アーカイブしたオリジナルファイルを消去するまでのデフォルトの時間間隔を設定します。
- **サーバープリセットにリンクしている Hot Folders を自動リフレッシュ** - ホットフォルダーで (Fiery Hot Folders コンソール内の) サーバープリセットの設定の表示を特定の時間間隔で更新できます。

ホットフォルダーのアクティベート

アクティブなホットフォルダーは、Hot Folders アプリケーションで監視されます。アクティベート解除された Hot Folders は監視されません。

Fiery Hot Folders コンソールにあるアクティベートするおよびアクティベート解除の各アイコンは、Hot Folder の状況に応じて使用可能またはグレー表示になります。Hot Folder がアクティベートされている場合、アクティベートするは選択できません。Hot Folder がアクティベート解除された場合、アクティベート解除は選択できません。

設定または Fiery サーバーをアップデートする場合、あるいはホットフォルダーを削除、編集または名前を変更する場合は、最初にフォルダーをアクティベート解除する必要があります。

ホットフォルダーをアクティベート/アクティベート解除する

アクティブなホットフォルダーは、Hot Folders アプリケーションによって監視されます。アクティベート解除されたホットフォルダーは監視されません。

- 次のいずれかの操作を行います。
 - ホットフォルダーをアクティベート解除するには、Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーを選択し、アクティベート解除するをクリックします。
 - ホットフォルダーをアクティベートするには、Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーを選択し、アクティベートするをクリックします。

すべてのホットフォルダーを停止して再開する

ホットフォルダーの監視は、いつでも停止および再開できます。Hot Folders アプリケーションを開くと、ホットフォルダーアプリケーションは、ホットフォルダーを継続的に監視し、Hot Folder に送信されるすべてのジョブを処理します。すべてのホットフォルダーを停止すると、処理が停止し、すべてのホットフォルダーを再開するまで、ホットフォルダーはすべて無効になります。

- 1 ファイル > 全ホットフォルダー停止をクリックしてホットフォルダーをすべて停止します。
- 2 ファイル > 全ホットフォルダー開始をクリックしてホットフォルダーをすべて再開します。

ホットフォルダーをすべて再開すると、ホットフォルダーはすべて以前の状態（アクティベートされた状態またはアクティベート解除された状態）に戻ります。

ホットフォルダーを管理する

ホットフォルダーを編集、複製、削除、および名前を変更できます。

ホットフォルダーを編集する

ホットフォルダーを編集するときは、まず、Hot Folder をアクティベート解除してオフラインにします。その後、ホットフォルダー設定ウィンドウにアクセスして変更を行います。

メモ：ジョブアクション、ジョブのプロパティ、入力形式、詳細設定の変更は、Hot Folder をアクティベート解除しなくても行えますが、それ以外の設定は変更できません。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、編集するホットフォルダーを選択し、タスクバーでアクティベート解除するをクリックします。
- 2 編集するホットフォルダーを選択し、編集をクリックします。
- 3 必要に応じて、設定を編集します。

すべての変更がすぐに反映され、今後ホットフォルダーで処理されるすべてのジョブに適用されます。

ホットフォルダーを複製する

既存のホットフォルダー（アクティベート済み/アクティベート解除済みを問わず）の設定を複製して新しいホットフォルダーを作成できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、複製するホットフォルダーを選択し、複製をクリックします。
- 2 必要に応じて、複製したホットフォルダーの名前を変更し、OK をクリックします。

ホットフォルダーの名前を変更する

ホットフォルダーの名前を変更するときは、まず、ホットフォルダーをアクティベート解除します。ホットフォルダーをアクティベート解除すると、ホットフォルダーはオフラインになり、使用中のホットフォルダーが変更されるのを防止できます（ホットフォルダーはネットワーク上で共有されている場合があります）。その後、Fiery Hot Folders コンソールからホットフォルダーの名前を変更できます。

⚠ 重要： Fiery Hot Folders コンソールを使用して、ホットフォルダーの名前を変更します。このとき、Windows および Mac OS ファイルの名前変更機能を使用しないでください。Windows でホットフォルダーの名前を変更しようとする、Fiery Hot Folders コンソールを使用するよう指示するエラーメッセージが表示されます。Mac OS でホットフォルダーの名前を変更しようとする、エラーは発生しませんが、ホットフォルダーが無効になります。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、名前を変更するホットフォルダーを選択し、タスクバーでアクティベート解除するをクリックします。
- 2 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックします。
- 3 フォルダー名フィールドに新しい名前を入力します。

ホットフォルダーを削除する

ホットフォルダーを削除するには、まず、ホットフォルダーをアクティベート解除します。その後、ホットフォルダーを削除します。ホットフォルダーを削除すると、ホットフォルダーとその下位フォルダーが永久に削除されます。

ホットフォルダーはネットワーク上で共有されることがあるため、ホットフォルダーをアクティベート解除すると、使用中のホットフォルダーが削除されるのを防止できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、削除するホットフォルダーを選択し、アクティベート解除するをクリックします。
- 2 削除アイコンをクリックします。

⚠ 重要：ホットフォルダーを削除すると、そのホットフォルダーに関連するファイル（ジョブログ、Fiery サーバー設定、Fiery サーバーに未送信のファイルなど）がすべて削除されます。

Fiery Hot Folders コンソールを表示または非表示にする

Hot Folders がバックグラウンドで動作している場合は、Fiery Hot Folders コンソールを表示または非表示にできません。

- 次のいずれかを行います。
 - Fiery Hot Folders コンソールを非表示にするには、ウィンドウ > コンソールを隠すを選択します。
 - Fiery Hot Folders コンソールを表示するには、Windows のシステムトレイの Fiery Hot Folders アイコンをダブルクリックします。

オリジナルのジョブファイルにアクセスする

Fiery Hot Folders コンソールからオリジナルのジョブファイルにアクセスできます。

- 次のいずれかを行います。
 - Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーを選択し、オリジナルファイル表示をクリックします。
 - デスクトップで、ホットフォルダーをダブルクリックし、[EFI_HotFolder_]をダブルクリックして、[MoveFolder]をダブルクリックします。

ホットフォルダーへのジョブ送信

Fiery Hot Folders コンソールまたはデスクトップから 1 つ以上のジョブを送信できます。ジョブは、指定されたキューに送信されるか、指定されたアクションに従って処理されます。

ジョブのプロパティ設定がホットフォルダーに送信されるジョブに適用されます。ジョブのプロパティでデフォルトを設定した場合、ジョブは Fiery サーバーのデフォルト設定で印刷されます。プリセットを選択した場合、ジョブはプリセット設定で印刷されます。詳細は、[ジョブのプロパティ](#)（11 ページ）を参照してください。

プリフライトチェックは潜在的なジョブのエラーを検出します。チェックするエラーと、重大なエラーが検出された場合に実行するアクションを設定できます。プリフライトは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition の機能です。Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition は Fiery サーバーで有効にする必要があります。

CT/LW または DCS 2.0 などのファイル形式は、複数のファイルで構成され、それらのファイルの中には、表示されないものや、ヘッダーや他の情報を含むものがあります。ホットフォルダーを使用して、複数のファイルで構成されるジョブを処理する場合は、フォルダー内にあるすべてのジョブファイルを送信します。これにより、すべてのファイル（非表示のファイルを含む）を確実に処理します。また、ジョブを確認する間隔を 10 秒以上に設定し、処理が始まる前にすべてのファイルを確実に揃えることをお勧めします。

ホットフォルダーにジョブを送信する

ホットフォルダーを介して、またはデスクトップから、Fiery サーバーにジョブを送信できます。

- 次のいずれかの操作を行います。
 - Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーを選択し、タスクバーでファイルのダウンロードをクリックします。次に、ダウンロードするファイルを参照するか、ファイル名を入力して選択をクリックします。
 - ファイルをホットフォルダーにドラッグ&ドロップするか、コピーして貼り付けます。
同じディスクパーティションに存在するホットフォルダーにファイルをドラッグすると、同じパーティションにあるため、ファイルはコピーではなく、*移動*されます。異なるパーティションまたはドライブにあるホットフォルダーにファイルをドラッグすると、ファイルは移動ではなく、*コピー*されます。
 - ドキュメントのオリジナルアプリケーションからファイルに印刷し、ホットフォルダーを保存先として指定します。

複数のジョブをフォルダーとして送信する

一部のファイル形式 (JPEG、PDF、TIFF) では、通常のフォルダー内にある複数のファイルをホットフォルダーに送信できます。

メモ： 特定の入力形式 (JPEG、PDF、TIFF) の出力ファイルの種類設定でフォルダーの場合全ファイルをマージするが選択されている場合、個々のファイルが 1 つの PDF ファイルにマージされます。同じ形式のファイルのみ (*JPEG のみ*、*PDF のみ*など) を 1 つのファイルに結合できます。

- 次のいずれかの方法でフォルダーをホットフォルダーに送信します。
 - フォルダーをホットフォルダーにドラッグアンドドロップします。
 - フォルダーをホットフォルダーにコピーし、貼り付けます。
 - フォルダーを右クリックし、ホットフォルダーにダウンロードを選択し、Hot Folder 名を選択します (Windows のみ)。

フォルダー内にある複数のファイルで構成されるジョブを送信する

CT/LW または DCS 2.0 などのファイル形式は、複数のファイルで構成され、それらのファイルの中には、表示されないものや、ヘッダーや他の情報を含むものがあります。複数のファイルで構成されるジョブを送信する場合は、これらのすべてのファイルが必要です。

メモ：ジョブを確認する間隔を 10 秒以上に設定し、処理が始まる前にすべてのファイルを実際に揃えることをお勧めします（[新しいホットフォルダーを作成する](#)（2 ページ）の詳細設定を参照）。

- ホットフォルダーを使用して、複数のファイルで構成されるジョブを処理する場合は、フォルダー内にあすすべてのジョブファイルを送信して、必要なすべてのファイルが処理されるようにします。

状況およびログウィンドウを表示する

Fiery Hot Folders コンソールには、現在のジョブの進行状況と、完了したジョブのログが表示されます。

- 状況ウィンドウには、ホットフォルダーで処理されるファイルの進行状況が表示されます。
- ログウィンドウには、処理されたすべてのジョブのログが詳細に表示されます。

処理が完了すると、ファイルが下位フォルダーに転送され、ジョブがログウィンドウに表示されます。

ホットフォルダーのジョブの進行状況を表示する

状況ウィンドウには、Hot Folder で処理されるファイルの進行状況が表示されます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、状況/ログをクリックします。
- 2 状況タブをクリックします。
- 3 表示メニューから次のいずれかをクリックします。
 - すべてのホットフォルダーの状況を表示するには、全サーバーをクリックします。
 - 特定の Fiery サーバーの状況を表示するには、その Fiery サーバーを選択します。

ホットフォルダーのログを表示する

ログウィンドウには、処理されたすべてのジョブのログが詳細に表示されます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、状況/ログをクリックします。
- 2 ログタブをクリックします。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - すべてのホットフォルダーのログを表示するには、表示メニューから全ホットフォルダーを選択します。
 - 特定のホットフォルダーのログを表示するには、表示メニューからフォルダーを選択します。
 - すべてのジョブを表示するには、完了ログをクリックします。
 - 処理または印刷に失敗したジョブのみを表示するには、エラーログをクリックします。

ホットフォルダーのエラーの詳細を表示する

エラーの詳細とその関連情報はログウィンドウ下部に表示されます。

ジョブが処理に失敗すると、警告インジケーターがジョブ名の横に表示されます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、状況/ログをクリックし、ログタブをクリックします。
- 2 失敗したジョブをログウィンドウで選択します。

「ログ」ウィンドウのログを消去する

ログウィンドウがいっぱいになったら、ログを消去できます。

- 1 状況/ログアイコンをクリックし、ログタブをクリックします。
- 2 すべて消去をクリックします。
- 3 確認画面ではいをクリックします。

ジョブのプロパティ

「ジョブのプロパティ」は、ジョブに指定できる印刷オプションです。これらの設定は、Hot Folder に送信されるジョブに適用されます。

これらのプロパティには、指定用紙上での両面、ステイプラーでのとじ、印刷などの基本オプションや、カラープロファイルなどの詳細設定が含まれます。

- 「ジョブのプロパティ」でデフォルトを選択すると、Fiery サーバーのデフォルト設定が使用されます。
- プリセットを選択すると、プリセット設定が使用されます。
- 一部の印刷オプションに書類の設定を保持が設定されていると、ジョブにすでに設定されているプロパティが使用されます。これらの設定は上書きできます。

「ジョブのプロパティ」から Fiery サーバーの拡張面付け機能にアクセスできます。次のような機能があります。

- Fiery Impose
- 製本メーカー（プリンターで利用可能なブックレットと拡張仕上げオプションなどを備えています）

「ジョブのプロパティ」グループ

「ジョブのプロパティ」の印刷オプションは、カテゴリ別にグループ分けされ、簡単にアクセスできます。

グループまたはタブは次のとおりです。

- クイックアクセス - 印刷オプションへのショートカットなどが含まれます。このウィンドウをカスタマイズして、頻繁に使用するオプションや印刷オプションの組み合わせを含めることができます。
- ジョブ情報 - ユーザー認証に必要なユーザー情報、安全な印刷プロパティ、ジョブの処理に関する情報など、ジョブに関する情報が含まれます。
- 用紙 - 用紙の属性や給紙に関する情報が含まれます。

- レイアウト - 用紙/シート上でのファイルの配置や画像の作成方法に関するオプションが含まれます。ただし、「トレイ調整」などの仕上げオプションを補正する位置設定は除きます。Fiery サーバーで利用可能な場合、「レイアウト」から Fiery Impose ソフトウェアにアクセスできます。
- カラー - カラープリンターで利用可能な印刷オプションが含まれます。
- イメージ - 画像変換の品質設定が含まれます（色を制御する設定を除く）。
- 仕上げ - プリンターに装着されたフィニッシャーに関連する印刷オプションが含まれます。また、仕上げオプションを補正する画像シフトも含まれます。
- バリアブルデータ印刷 - バリアブルデータ印刷に関連する印刷オプションが含まれます。
- スタンプ - ジョブの画像を追加、非表示、または削除する画像スタンプオプションが含まれます。また、ウォーターマークのプロパティも含まれます。「スタンプ」タブをサポートしていない Fiery サーバーもあります。
- 概要 - 「ジョブのプロパティ」の概要を表示します。

ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定する

Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーのジョブのプロパティを指定できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 ジョブのプロパティメニューで定義をクリックしてジョブのプロパティウィンドウを開きます。

メモ： デフォルトでは、一部の印刷オプションに書類の設定を保持が設定されている場合があります。この設定により、ジョブに設定されているプロパティを保持できます。これらの設定は上書きできます。設定はホットフォルダーに送信されたジョブに適用されます。ジョブのプロパティでデフォルトを選択した場合、ジョブは Fiery サーバーのデフォルト設定で印刷されます。プリセットを選択した場合、ジョブはプリセット設定で印刷されます。詳細は、[プリセットの使用](#)（12 ページ）を参照してください。

- 3 各グループで印刷オプションを指定するか、プリセットリストからプリセットを選択します。

プリセットの使用

プリセットはジョブのプロパティから利用可能です。ジョブのプリセットは、保存済みプリセットの名前と、プリセット保存、ローカルプリセット管理、デフォルト、サーバープリセットなどのオプションとともにプリセットリスト内にあります。

このリストからジョブのプリセットの 1 つを選択するか、ジョブのプロパティウィンドウで選択した現在のオプションに基づいて新しいプリセットを作成できます。現在ジョブがプリセットを使用していない場合、プリセット設定は空白になり、プリセット設定にテキストは表示されません。すべてのプロパティは初期のデフォルト設定を表示します。ジョブのプリセットが選択された場合、保存済みプリセットを反映するためにすべての設定が更新されます。いずれかの印刷設定を変更すると、プリセット一覧は空白に戻ります。

ジョブのプリセットには、次の2種類があります。

- ローカルプリセットは、ユーザーのローカルコンピュータに保存され、他のユーザーとは共有されません。ローカルプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。
- サーバープリセットは Fiery サーバーに保存され、Fiery サーバーの他のユーザーと共有されます。

ホットフォルダーにサーバープリセットが選択されている場合、Fiery Hot Folders コンソールに表示されるジョブのプロパティには、プリセット名とその対応する設定が表示されます。サーバープリセットの場合、リフレッシュボタンを使用すると、表示内容が Fiery サーバーの現在の設定にアップデートされます。またホットフォルダーを使用して、サーバープリセットの設定表示を指定した間隔で自動的にアップデートできます。詳細は、[ホットフォルダーの環境設定を指定する](#) (5 ページ) を参照してください。

Command WorkStation では、Fiery サーバーにシステム管理者としてログオンすると、サーバープリセットを作成、編集、名前変更、非公開、公開、削除できます。ホットフォルダーでは、ローカルプリセットをジョブのプロパティウィンドウでのみ保存できます。

ローカルプリセットの作成

ローカルプリセットを作成するには、ジョブのプロパティウィンドウで設定を選択し、選択した設定をプリセットリストに保存します。サーバープリセットとローカルプリセットは個別にリストされ、プリセットリストの区切り線で区別されます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 ジョブのプロパティメニューで定義をクリックしてジョブのプロパティウィンドウを開きます。
- 3 必要に応じて各タブの印刷設定を調整します。
- 4 プリセットで、プリセット保存をクリックします。
- 5 ローカルプリセットを選択します。
- 6 わかりやすいプリセット名を入力して保存をクリックします。

利用可能なプリセットのリストにプリセットが追加されます。ローカルプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。

ローカルプリセットの編集

ローカルプリセットを編集できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 ジョブのプロパティメニューで定義を選択してジョブのプロパティウィンドウを開きます。
- 3 プリセットで、ローカルプリセット管理を選択します。
- 4 編集するプリセットを選択します。
- 5 印刷設定を変更します (プリセットフィールドは空白になります)。
- 6 プリセットリストからプリセット保存を選択します。

- 7 同じプリセット名を入力し、保存をクリックしてプリセットを保存します。
- 8 OK をクリックして同じ名前の現在のプリセットを置き換えます。

ローカルプリセットを削除/名前を変更する

プリセットを削除または名前を変更できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 ジョブのプロパティメニューで定義をクリックしてジョブのプロパティウィンドウを開きます。
- 3 プリセットで、ローカルプリセット管理を選択します。
- 4 プリセットを選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - プリセットを削除するには、削除をクリックします。
 - プリセットの名前を変更するには、名前変更をクリックし、わかりやすいプリセット名を入力して保存をクリックします。

面付けテンプレート

印刷およびとじの特殊なニーズに対応する面付けレイアウトを適用できます。レイアウトを面付けするには、ホットフォルダーに面付けテンプレートを適用し、そのホットフォルダーにジョブをドラッグします。

デフォルトの面付けテンプレートには、ライセンスや dongle がなくてもアクセスできます。カスタム面付けテンプレートにはライセンスが必要です (dongle を必要とする Fiery サーバーに接続されている場合は、dongle が必要です)。

- カスタムテンプレートを作成するには、既存のテンプレートの面付け設定を変更し、その新しいテンプレートをホットフォルダーに保存します。

クロップボックスに合わせる仕上がりサイズ設定は、デフォルトの面付けテンプレートに使用されます。ユーザー定義およびトリムボックスに合わせる仕上がりサイズ設定は、カスタム面付けテンプレートでサポートされています。ユーザー定義では、ソースドキュメントに定義されている PDF トリムボックスが仕上がりサイズとして使用されます。ユーザーはデフォルト値を上書きしてトリムサイズを設定できます。トリムボックスに合わせるは、ギャングアップ面付けでのみ使用できます。トリムボックスに合わせるワークフローは、サイズの小さな印刷物 (名刺、はがき、コンサートチケットなど) のレイアウトをサイズの大きなシート (11 x 17 など) に動的に作成する自動ワークフローです。

メモ: ユーザー定義およびトリムボックスに合わせるカスタムテンプレートでは、PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

バリアブルデータ印刷をサポートする Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている場合は、バリアブルデータ印刷ジョブを課すこともできます。

面付けテンプレートを編集する

Fiery Impose では、面付けテンプレートを編集できます。Fiery サーバーは、Fiery Impose をサポートする必要があり、ユーザーは適切なライセンスを持っている必要があります。古いタイプの Fiery サーバーではダウンロードが必要となることがあります。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 ジョブのプロパティメニューで定義をクリックしてジョブのプロパティウィンドウを開きます。
- 3 レイアウト > Impose を選択します。
- 4 次のいずれかを行います。
 - 一覧から面付けテンプレートを選択し、OK をクリックします。
クロップボックスに合わせる仕上がりサイズ設定は、デフォルトの面付けテンプレートに使用されます。
 - Impose テンプレート編集をクリックして Fiery Impose を起動し、カスタムテンプレートを作成します。
ユーザー定義仕上がりサイズ設定は、カスタム面付けテンプレートでサポートされており、Acrobat PDF のトリムボックス設定をサポートしています。
 - トリムボックスに合わせる仕上がりサイズ設定は、ギャングアップカスタム面付けテンプレートでサポートされており、Acrobat PDF のトリムボックス設定をサポートしています。

メモ：ユーザー定義およびトリムボックスに合わせるカスタムテンプレートでは、PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

定義済み面付けテンプレート

ホットフォルダーには、1-up フルブリード、2-up 無線とじ、2-up 中とじ、3-up 巻き三つ折り、4-up 内巻き四つ折り、4-up 四つ折り、および 4-up Z 折りの面付けテンプレートが用意されています。

1-up フルブリード

1-Up フルブリードレイアウトでは、1 シートに 1 ページを印刷できます。プリンターのマークは、用紙を裁断する位置を示し、カラーコンテンツを用紙の端まで広げます。このレイアウトにページ数の制限はありません。このレイアウトでは次の設定が適用されます。

- ブリード
- プリンターのマーク（トリムマークとジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

2-up 無線とじ

2-up 無線とじレイアウトでは、無線とじ製本の面付け済みシート作成できます。各シートは一度折られ、積み重ねられます。

2-up 無線とじレイアウトは、ページ数が 4 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブで使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。ページは 4 枚のグループで並べられるので、折ると各シートにつき 4 枚の連続ページがあることになります。クリープ調整オプションはこのテンプレートには影響がありません。

2-up 無線とじレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベル）
- 用紙サイズにあわせる
- 無線とじ

2-up 中とじ

2-up 中とじレイアウトでは、中とじ製本のシートを作成できます。すべてのシートはまとめて折られ、重なっています。

2-up 中とじレイアウトは、ページ数が 4 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。各ページは、シートが折られ、とじられた状態でページが連続になるような順になっています。

2-up 中とじレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベル）
- 用紙サイズにあわせる
- 中とじ

3-up 巻き三つ折り

3-up 巻き三つ折りレイアウトは、6 ページあるいはページ数が 6 の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブにも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。

3-up 巻き三つ折りレイアウトは、1 枚のシートが 3 つのセクションに折られています。3 つのセクションは同じ幅ですが、各セクション間のスペースは異なり、左端のパネルは他の 2 つのパネルの上に折ることができます。

3-up 巻き三つ折りは通常以下のイラストのように折ります。



3-up 巻き三つ折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

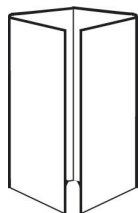
- 両面
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

4-up 内巻き四つ折り

4-up 内巻き四つ折りレイアウトは、4枚のパネルからなるパンフレット用に頻繁に使用されます。仕上がったパンフレットは、一度開くと畳んだ時のサイズの2倍に、もう一度開くと4倍になります。

4-up 内巻き四つ折りレイアウトは、8ページまたはページ数が8の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、空白ページが追加されます。

4-up 内巻き四つ折りは通常以下のイラストのように折ります。



4-up 内巻き四つ折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

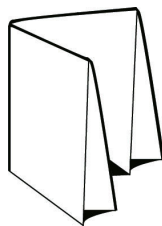
4-up 四つ折り

4-up 四つ折りレイアウトでは、印刷シートの両面に4ページの上端をつき合わせたレイアウトでブックレットを作成できます。

4-up 四つ折りレイアウトは、ページ数が8の倍数であるジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、空白ページが追加されます。ページ順は、シートが90度で2回折られ、トリミングされ、面付け済みシートにとじられ、ページが連続になるようになっています。上側2ページを回転して、面付け済みシートは水平、垂直に折り、トリミングできます。仕上がったブックレットのすべてのページは適切な順序と回転になっています。

このレイアウトは2つの折りが必要ですが、テンプレートは背表紙の折りに対してのみ折り目を適用します。

4-up 四つ折りは通常以下のイラストのように折ります。



4-up 四つ折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- ブリード
- とじしろ
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベル）

- 用紙サイズにあわせる
- 中とじ

4-up Z 折り

4-up Z 折りレイアウトは、折り目の付いた背表紙にストレスを加えずに、多くのパネルを重ねることができます。最も頻繁に見られる例は道路の地図です。

このレイアウトは、8 ページのジョブ用に準備されていますが、任意のページ数のジョブでも使用できます。必要に応じて、ブランクページが追加されます。4-up Z 折りは通常以下のイラストのように折ります。



4-up Z 折りレイアウトでは次の設定が適用されます。

- 両面
- プリンターのマーク（折りマーク、トリムマーク、およびジョブラベルのみ）
- 用紙サイズにあわせる
- ギャングアップ唯一

ホットフォルダーの入力形式

入力形式ウィンドウでは、ファイルフィルターとアプリケーション固有のオプションにアクセスできます。

ファイルフィルターは、Fiery サーバーにファイルを送信する前に、ほとんどのファイルの種類を PostScript または PDF に変換します。アプリケーション固有のオプションを使用すると、オリジナルアプリケーションを開いたりインストールしたりしなくても、印刷設定オプション（カスタムまたは自動変倍、方向、解像度など）を変更できます。

フィルターを割り当てると、Hot Folders アプリケーションは、ファイルの種類を自動的に検出し、ファイルを Fiery サーバーに送信する前に PostScript または PDF に変換します。

出力ファイルの種類

ほとんどのホットフォルダーフィルターは、デフォルトで PostScript ファイルに変換します。出力ファイルの種類オプションを使用すると、必要に応じて、さらに PostScript を PDF に変換できます。

EPS、Microsoft、PS、および CT/LW ファイルの場合、PDF への出力を選択すると、Adobe Acrobat Distiller のプロファイルから選択して Distiller のジョブオプションを設定し、PostScript から PDF への変換品質を制御できます。

Distiller のプロファイルと設定にアクセスする際、Hot Folders アプリケーションは、Adobe Acrobat で定義されたデフォルトの場所から Distiller のプロファイルを取得します。ただし、プロファイルを別の場所に保存している場合は、デフォルトの場所を手動でコピーする必要があります。

PDF、TIFF、JPEG ファイルの場合は、フォルダーの場合全ファイルをマージするオプションを使用できます。

出力ファイルの種類オプションは、VDP を除くすべてのフィルターで利用できます。

入力形式を指定する

ホットフォルダー設定ウィンドウから入力形式を指定できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 入力形式の隣にある編集をクリックして入力形式ウィンドウを開きます。
- 3 ウィンドウの左側で 1 つまたは複数の入力形式（フィルター）を選択します。
- 4 ウィンドウの右側で入力形式の詳細を設定します。
- 5 出力ファイルの種類を設定するには、出力ファイルの種類ペインでファイルの種類をクリックします。
- 6 OK をクリックして、ホットフォルダー設定ウィンドウに戻ります。
- 7 OK をクリックして設定を保存します。

ホットフォルダーフィルター

ホットフォルダーフィルターは、ファイルを Fiery サーバーに送信する前に、ファイルを PostScript または PDF に変換します。

フィルターは、次の 4 つのカテゴリに分類されます。

- 一般フィルター（ほとんどのグラフィックアートおよびプロダクション印刷アプリケーション用）
- 色分解フィルター（色分解されるグラフィックアートアプリケーション用）
- 特殊フィルター
- JDF フィルター

フィルターのほとんどは非排他的です。フィルターが同一のカテゴリに属している限り、同じホットフォルダーにフィルターをいくつでも適用できます。ただし、同じホットフォルダーに対して異なるカテゴリのフィルターを適用することはできません。

必ずしも、すべてのフィルターを利用できるとは限りません。利用可能なフィルターは、ホットフォルダーが接続されている Fiery サーバーにインストールされているオプションによって異なります。

一般フィルター

一般フィルターには、ほとんどのグラフィックアートおよびプロダクション印刷アプリケーション用のフィルターなどが含まれています。

EPS フィルター

EPS フィルターは EPS ファイルを変換し、カスタムまたは自動変倍、方向、およびページ上の画像の位置のオプションを提供します。

EPS フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、Hot Folder を Fiery サーバーに接続し、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition または Fiery Productivity Package を有効にする必要があります。

EPS フィルターの入力ファイルの種類は.eps です。

オプション	説明
オリジナルサイズ	オリジナル画像のサイズを保持します。
カスタムサイズ	画像を、ユーザーが入力する幅と高さの値に拡大縮小します。
縦横比を固定	オリジナルの縦横比を維持します。したがって、画像が伸びたり歪んだりすることはありません。これを選択すると、1つの値（高さまたは幅）を入力すると、もう1つの値が自動的に設定され、オリジナル画像の比率が保持されます。
自動変倍: ページサイズにあわせる	指定したページサイズに合わせて画像を拡大縮小します。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
自動変倍: 用紙に合わせて縮小	指定したページサイズに合わせて画像を縮小します。 用紙に合わせて縮小は縮小のみを行います。画像がすでにページサイズより小さい場合は、縮小されません。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像はサイズ設定に比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
印刷可能範囲のみにあわせる	自動変倍を使用する場合に、切り取りが発生しないようにします。Fit to Page（ページに合わせて）および自動拡大縮小: 用紙に合わせて縮小します。 フルブリードの場合にはこのオプションを選択しないでください。
サイズ	自動変倍のページサイズを指定します。Fit to Page（ページに合わせて）および自動拡大縮小: 用紙に合わせて縮小します。
方向	縦方向または横方向を指定します。 画像を選択した向きにぴったりと合うよう自動回転させるには、画像自動回転を選択します。
画像位置	最上部左、最上部右、最下部左、最下部右、または中央（デフォルト）に合わせてページの画像を配置します。
出力ファイルの種類	詳細は、 出力ファイルの種類 （18 ページ）を参照してください。

JPEG フィルター

JPEG フィルターは、ほとんどの標準的な JPEG ファイルを PostScript または PDF ファイルに変換し、カスタムおよび自動変倍、解像度、方向、ページ上の画像の位置のオプションを提供します。

JPEG フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーに Hot Folder が接続されている必要があります。

JPEG フィルターには、.jpeg および .jpg ファイルを入力します。フォルダーに複数の JPEG ファイルを送信できます。このファイルは結合され、1つの PDF ファイルとして出力されます。この機能をアクティベートするには、出力ファイルの種類の場合全ファイルをマージするオプションを選択します。

オプション	説明
オリジナルサイズ	オリジナル画像のサイズを保持します。
カスタムサイズ	画像を、ユーザーが入力する幅と高さの値に拡大縮小します。
縦横比を固定	オリジナルの縦横比を維持します。したがって、画像が伸びたり歪んだりすることはありません。これを選択すると、1つの値（高さまたは幅）を入力すると、もう1つの値が自動的に設定され、オリジナル画像の比率が保持されます。
解像度	指定する解像度で、印刷する画像を拡大縮小します。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。
自動変倍: ページサイズにあわせる	入力形式で指定したページサイズに合わせて画像のサイズを変更します。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
自動変倍: 用紙に合わせて縮小	選択したページサイズに合わせて画像を縮小します。 用紙に合わせて縮小は縮小のみを行います。画像がすでにページサイズより小さい場合は、縮小されません。 画像は、ページのサイズ設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。ジョブのプロパティ（メディアタブ）で異なるページサイズを選択した場合、画像は入力形式で指定されたサイズに比例して拡大縮小されますが、ジョブはジョブのプロパティで指定した用紙サイズで印刷されます。
印刷可能範囲のみにあわせる	自動変倍を使用する場合に、切り取りが発生しないようにします。Fit to Page（ページに合わせて）および自動拡大縮小: 用紙に合わせて縮小します。 印刷可能領域は印刷デバイスによって決まります。
サイズ	自動変倍のページサイズを指定します。Fit to Page（ページに合わせて）および自動拡大縮小: 用紙に合わせて縮小します。

オプション	説明
方向	縦方向または横方向を指定します。 画像を選択した向きにぴったりと合うよう自動回転させるには、画像自動回転を選択します。
画像位置	最上部左、最上部右、最下部左、最下部右、または中央（デフォルト）に合わせてページの画像を配置します。
出力ファイルの種類	詳細は、 出力ファイルの種類 （18 ページ）を参照してください。

Microsoft フィルター

Microsoft フィルターは、Microsoft ネイティブファイル形式（Excel、PowerPoint、Word、Publisher など Microsoft Office アプリケーションで作成したファイル）を PostScript または PDF に変換します。

これらのフィルターを使用するには、使用している Hot Folders アプリケーションと同じシステムに Microsoft Office をインストールする必要があります。システムには PostScript プリンターまたは Acrobat Distiller もインストールされている必要があります。

Microsoft フィルターは Mac OS には対応していません。

次のバージョンとファイル形式がサポートされています。

アプリケーション	バージョン	ファイル拡張子
Office	2010	各種
Word	2003	.doc
Word	2007	.docx
Excel	2003	.xls
Excel	2007	.xlsx
PowerPoint	2003	.ppt、.pps
PowerPoint	2007	.pptx、.ppsx
Publisher	2003	.pub
Publisher	2007	.pub

メモ： Office 2007 のファイルを印刷するには、システムに Office 2007 がインストールされていなければなりません。Office 2007 は Office 2003 および Office 2000 と互換性がありますが、Microsoft Office の以前のバージョンは Office 2007 ファイルを処理できません。

メモ: PDF に出力するには、Adobe PDF 印刷設定でシステムのフォントのみ使用し、文書のフォントを使用しないオプションをオフにします。

Microsoft フィルターには次の設定とオプションがあります。

設定とオプション	説明
プリンター名	Windows システムにインストールされている PostScript プリンタードライバーを選択します。 このフィルターでは、このドライバーを使用して PostScript ファイルを作成します。この PostScript ファイルは、ホットフォルダーから Fiery サーバーに送信されます。
PowerPoint の設定:	
印刷	スライド、ビラ、注釈ページ、または概要表示の出力形式を選択します。
カラー/グレースケール	カラー、グレースケール、または白黒の出力を選択します。
PostScript の詳細設定:	
用紙サイズにあわせる	アプリケーションで指定した用紙サイズに自動的に合うよう、画像を拡大縮小します。
フレームスライド	各スライドの周りにフレームを印刷します。
コメントおよびインクマークアップを印刷	コメント、注釈、インク図面またはマークアップを持つ書類を印刷します。
隠しスライドを印刷	非表示のスライドを印刷します。
高品質	透明な画像、グラフィック、およびファイルを高品質で印刷します（高解像度で印刷すると、色が若干変わることがあり、陰影効果がソフトになります）。 高品質を選択すると、PostScript ファイルのサイズが大幅に増加（最大 250%）することがあり、Hot Folder や Fiery サーバーでの処理が低速になる可能性があります。 高品質設定は、PowerPoint 2007 がコンピューターにインストールされている場合にのみ利用できます。
出力ファイルの種類	詳細は、 出力ファイルの種類 （18 ページ）を参照してください。

PDF フィルター

PDF/X (PDF Exchange) プリフライトは、プリプレス用データの交換を目的に作成された Adobe PDF のサブセットです。これは、PDF/X ファイルの読み込みと作成を行うアプリケーションの動作方法を定義します。

PDF フィルターは、PDF ファイルが PDF/X-1a または PDF/X3 標準に準拠していることを検証します。このフィルターは、PDF ファイルがこれらの標準に準拠しているかどうかを確認します。PDF ファイルが PDF/X に準拠しない場合、ジョブの処理は失敗し、エラーレポートが表示されます。

PDF フィルターは、プリフライト機能用の排他的なフィルターです。このフィルターを選択すると、PostScript 変換は行われません。

PDF フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーに Hot Folder が接続されている必要があります。

PDF フィルターの入力ファイルの種類は PDF です。

メモ：フォルダーに複数の PDF ファイルを送信できます。これらのファイルは結合され、1 つの PDF ファイルとして出力されます。この機能をアクティベートするには、出力ファイルの種類の場合全ファイルをマージするを選択します。

オプション	説明
PDF/X プリフライト	<p>プリフライトする PDF/X 標準を指定します。</p> <p>PDF/X1-a 標準：RGB またはデバイス独立型（カラー管理）のデータではなく、CMYK（またはスポットカラー）データがファイルに含まれているかどうかを確認します。</p> <p>PDF/X3：PDF/X-1a 標準のすべての要件を満たしていますが、デバイス独立型（カラー管理）データを含んでいます。</p> <p>プリフライトおよび PDF/X への準拠についての詳細は、Fiery サーバー付属の取扱説明書を参照してください。</p>
エラーレポート	<p>指定した場所にエラーレポートを保存します。</p> <p>エラーレポートを保存する場所は「参照」をクリックして選択します。</p>
出力ファイルの種類	<p>出力ファイルの種類（18 ページ）を参照してください。</p>

PDF (VT) フィルター

PDF/VT (Portable Document Format/Variable Transactional) は、Adobe が開発したバリエーションデータのファイル形式です。PDF (VT) が選択されている場合、PDF の出力ファイル形式を除く他のすべての PDF オプションは無効になります。

「PDF/VT」チェックボックスは、PDF/VT に対応する Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている場合にのみ表示されます。

Fiery サーバーが PDF/VT に対応している場合、PDF/VT を入力形式として指定するには、入力形式ダイアログボックスの一般リストで PDF を選択し、PDF 「ペインで」 PDF/VT を選択します。

PS フィルター

PS (PostScript) フィルターは出力ファイル形式を指定するためにのみ使用されます。このファイルの種類はすでに PostScript なので、このフィルターを使用する際、変換は行われません。

PS フィルターの入力ファイルの種類は.ps です。

オプション	説明
出力ファイルの種類	詳細は、 出力ファイルの種類 (18 ページ) を参照してください。

TIFF フィルター

TIFF フィルターは、TIFF (Tagged Image File Format) ファイルを PostScript または PDF ファイルに変換します。カスタムおよび自動変倍、解像度、方向、ページ上の画像の位置などのオプションを指定できます。

TIFF フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている必要があります。

TIFF フィルターの入力ファイルの種類は.tiff と.tif です。

フォルダー内の複数の TIFF ファイルを送信すると、これらのファイルをマージして 1 つの PDF ファイルとして出力できます。この機能をアクティベートするには、出力ファイルの種類の場合全ファイルのマージするを選択します。

オプション	説明
オリジナルサイズ	オリジナル画像のサイズを保持します。
カスタムサイズ	画像の幅と高さを入力値に合わせます。
縦横比を固定	オリジナルの縦横比を維持します。したがって、画像が伸びたり歪んだりすることはありません。このオプションを選択した場合は、どちらか一方（高さまたは幅）の値のみを入力します。他方の値は、オリジナルの画像の縦横比を維持して自動的に定義されます。
解像度	画像を指定した解像度で印刷します。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。
自動変倍：ページサイズにあわせる	「入力形式」で指定されたページサイズに合わせて画像のサイズを変更します。 画像は入力形式 > 「サイズメニュー」で選択したページサイズに従って拡大縮小されます。「ジョブのプロパティ」(「メディア」タブ) で異なるページサイズを選択していても、画像は「入力形式」で指定した「サイズ」に比例して拡大縮小されますが、ジョブは「ジョブのプロパティ」で指定した用紙サイズで印刷されます。

オプション	説明
自動変倍：用紙に合わせて縮小	<p>「入力形式」で指定したページサイズに合わせて画像を縮小します。</p> <p>「用紙に合わせて縮小」は縮小のみを行います。画像がすでにページサイズより小さい場合は、縮小されません。</p> <p>画像は「ページ」の「サイズ」設定で選択したページサイズに比例して拡大縮小します。「ジョブのプロパティ」（「メディア」タブ）で異なるページサイズを選択していても、画像は「入力形式」で指定した「サイズ」に比例して拡大縮小されますが、ジョブは「ジョブのプロパティ」で指定した用紙サイズで印刷されます。</p>
印刷可能範囲のみにあわせる	<p>「自動変倍：ページサイズにあわせる」と「自動変倍：用紙に合わせて縮小」を使用する場合に、切り取りが発生しないようにします。</p> <p>印刷可能領域は印刷デバイスによって決まります。</p>
サイズ	<p>「自動変倍：ページサイズにあわせる」と「自動変倍：用紙に合わせて縮小」のページサイズを指定します。</p>
方向	<p>「縦」または「横」を指定します。</p> <p>「画像自動回転」を選択すると、選択した向きに合わせて画像を自動的に回転します。</p>
画像位置	<p>ページ上の画像位置を指定します。「左上」「右上」「中央」「左下」「右下」から選択できます。デフォルトは「中央」です。</p>
出力ファイルの種類	<p>出力ファイルの種類（18 ページ）を参照してください。</p>

VDP フィルター

VDP フィルターは、VDP（バリエーションデータ印刷）ジョブを処理します。処理された VDP ジョブは、Fiery サーバーに直接送信します。

VDP フィルターの入力ファイルの種類は .ppml、.zip、.vps、.ps です。

関連する VIPP ファイルは、XGFC フォルダー内に存在する必要があります。

色分解フィルター

色分解フィルターには、DCS フィルターや TIFF/IT-P1 フィルターなどがあります。

DCS フィルター

DCS フィルターは DCS 2.0 ファイルを受け付けて、単一のプリセパレーション PostScript ファイルを出力します。

QuarkXPress によって開発された DCS 2.0 形式は、電子的な色分解を定義する画像形式です。

このフィルターは、次の DCS 2.0 ファイルを受け付けます。

- 単一/複数のファイル DCS、コンポジットなし
- 単一/複数のファイル DCS、グレースケールコンポジット
- 単一/複数のファイル DCS、カラーコンポジット

DCS フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーに Hot Folder が接続されている必要があります。

DCS 入力ファイルの種類は、.dcs、.dcs2、および.eps です。

オプション	説明
出力ファイルの種類	詳細は、 出力ファイルの種類 (18 ページ) を参照してください。

DCS 2.0 フィルターには設定可能なオプションがありません。ただし DCS 2.0 ジョブを変換するには、次のガイドラインに従わなければなりません。

- ジョブのプロパティ > カラーで、色分解の組み合わせ印刷オプションを有効にします。
- 1 つのフォルダーの DCS 2.0 ジョブについて必要なすべてのファイルがあることを確認します。必要なファイルが欠けていると、フィルターの処理が失敗します。
- フォルダー内に DCS 2.0 ジョブ用の複数のファイルが含まれている場合は、そのフォルダー全体を Hot Folder 内に配置できます。
- ダウンロードコマンドを使用して DCS 2.0 ジョブをダウンロードする場合は、フォルダー内にすべてのファイルが揃っている必要があり、フォルダー全体をダウンロードする必要があります。

メモ：ドラッグアンドドロップ (またはコピーと貼り付け) を使用して、複数のファイルで構成されるジョブをホットフォルダーに送信する場合は、フォルダー内の DCS 2.0 ファイルをすべて送信することをお勧めします。また、ジョブを確認する間隔を 10 秒以上に設定して、すべてのファイルが揃っていることを確認してから処理を開始することをお勧めします。

TIFF/IT-P1 フィルター

TIFF/IT-P1 フィルターは、TIFF/IT ファイルをプリセパレーション PostScript ファイルに変換します。解像度、アンチエイリアス、および圧縮のオプションを指定できます。

TIFF/IT-P1 は、従来のプリプレス印刷用によく使用されるファイル形式です。また、TIFF/IT-P1 は、別のプラットフォームに最終の印刷ジョブデータを転送する際によく使用されるファイル形式です。

TIFF/IT-P1 フィルターは、Fiery Graphic Arts Package、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition、および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている必要があります。

TIFF/IT-P1 フィルターの入力ファイルの種類は.fp と .ifp です。

メモ: TIFF/IT-P1 は複数のファイルで構成されているため、ジョブを確認する間隔を 10 秒以上に設定することをお勧めします。これにより、変換中にファイルがまだコピー中であった場合にジョブが処理されないという問題を防ぐことができます。詳細は、[新しいホットフォルダーを作成する \(2 ページ\)](#) を参照してください。

オプション	説明
解像度	解像度を選択します。単位は dpi (1 インチあたりのドット数) です。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。
アンチエイリアス	「ニアレストネイバー(高速)」(処理速度を優先する場合) または「バイリニア(最良)」(品質を優先する場合) を選択します。
圧縮	圧縮しない場合は「なし」、可逆的にデータを圧縮する場合は「RLE(実行長エンコード)」を選択します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類 (18 ページ) を参照してください。

プリセパレーションファイルをコンポジット画像として印刷するには、ジョブのプロパティ > カラーの色分解の組み合わせを選択します。

特殊フィルター

特殊フィルターには、CT/LW フィルター、ExportPS フィルター、PDF2Go フィルターなどがあります。

CT/LW フィルター

CT/LW フィルターは、複数の CT、LW、ヘッダーファイル (LH、PG、または ASSG) を 1 つに結合された PostScript または PDF ファイルに変換します。

CT/LW ファイルには、写真画像、ラインアート画像、または図面のテキストや線に関する情報が含まれます。最終的な出力は、CT (連続トーン) および LW (ベクトル線図面) ファイルによって決まります。

CT/LW フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、Fiery サーバーで、次のいずれかを有効にする必要があります。

CT/LW フィルターは、複数の CT および LW ファイルを受け付け、ヘッダーファイルがある場合は、それも受け付けます。このフィルターは、FP、LW、および CT ファイルに基づいて、この順序で結合ファイルの寸法を指定します。スポットカラーは、CT/LW ファイルに指定される変換値を使用して CMYK を処理するように変換されます。結合ファイルは単一の RLE 圧縮 CMYK 画像で、解像度を指定できます。

CT、LW、または FP ファイルをドラッグ&ドロップすると、出力は単一の PostScript ファイルになります。

オプション	説明
解像度	解像度を選択します。単位は dpi (1 インチあたりのドット数) です。 最大解像度はプリンターによって異なります。 プリンターのデフォルトの解像度でファイルを再サンプリングするには自動を選択します。

オプション	説明
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類 (18 ページ) を参照してください。

CT、LW、およびヘッダーファイルを含むページフォルダーを一度に 1 ページずつドロップまたはダウンロードできます。これは、CT/LW ファイルをホットフォルダーに送信するための推奨方法です（この方法では、隠しファイルも Fiery サーバーに確実に転送されます）。

メモ：一部の CT/LW ファイルでは、ファイル名の先頭に、隠しファイルであることを示す「.」（ピリオド）が含まれる場合があります。（ピリオド）が含まれる場合があります。CT/LW ファイルの処理時に、フォルダー設定で隠しファイルを表示するをオンすると、隠しファイルを表示できます。すべてのファイル（隠しファイルを含む）をコピーするには、必要なすべてのファイルを含む CT/LW ページフォルダー全体をホットフォルダーにドロップします。

ExportPS フィルター

ExportPS フィルターは、ExportPS ファイルをプリンターの解像度でレンダリング/再サンプリングして ExportPS ファイルを処理します。

PostScript または PDF 出力を選択できます。ExportPS は、プリンターで処理できる、ポータブルなラスター PostScript または EPS 出力に Brisque ジョブを変換します。

ExportPS フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている必要があります。

ExportPS フィルターの入力ファイルの種類は.ps と.eps です。

オプション	説明
解像度	解像度を選択します。単位は dpi（1 インチあたりのドット数）です。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。 印刷デバイスのデフォルトの解像度でファイルを再サンプリングするには「自動」を選択します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類 (18 ページ) を参照してください。

メモ：ExportPS フィルターでは、PDF への変換に Acrobat Distiller は不要です。

PDF2Go フィルター

PDF2Go フィルターは、PDF2Go ファイルをプリンターの解像度でレンダリングと再サンプリングを行って PDF2Go ファイルを処理します。PostScript または PDF 出力を選択できます。

PDF2Go フィルターは、通常、ラスターライズされた CT（連続トーン）および LW（線図面）ジョブページの PDF レイヤーを単一の PDF ファイルに含み、PDF レイヤーの解像度はレイヤーごとに異なります。

メモ：PDF2Go フィルターは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition および Fiery Productivity Package の機能です。このフィルターを適用するには、次のいずれかを有効にした Fiery サーバーにホットフォルダーが接続されている必要があります。

PDF2Go の入力ファイルの種類は.pdf です。

オプション	説明
解像度	解像度を選択します。単位は dpi (1 インチあたりのドット数) です。 最大解像度は印刷デバイスによって異なります。 印刷デバイスのデフォルトの解像度でファイルを再サンプリングするには「自動」を選択します。
出力ファイルの種類	出力ファイルの種類 (18 ページ) を参照してください。

メモ: PDF2Go フィルターでは、PDF への変換に Acrobat Distiller は不要です。

JDF フィルター

Hot Folders は、JDF (ジョブ定義形式) ワークフローに対応しています。JDF 技術は、ジョブチケットのための XML ベースのオープン業界規格です。

送信アプリケーションからの JDF ジョブは、JDF 送信を有効にしている Fiery サーバーに Hot Folders を介して送信できます。JDF フィルターは、Windows 版 Hot Folders にのみ対応し、Mac OS 版 Hot Folders には対応していません。

JDF ジョブをホットフォルダーに送信すると、入力形式ダイアログボックスに JDF オプションが表示され、それ以外のオプションはすべて無効になります。JDF フィルターを使用するには、Fiery サーバーが JDF ジョブに対応し、「設定」で Fiery JDF 機能をオンにしている必要があります。

JDF を入力形式として設定すると、Hot Folders の「ジョブのプロパティ」とジョブアクションの選択が無効になります。ジョブは、ジョブの JDF チケットに定義された設定と、Fiery サーバーに構成される JDF 設定を使用します。JDF ジョブのジョブアクションは、「設定」の「JDF」セクションで「仮想プリンター」を選択して指定できます。

JDF ジョブをホットフォルダーに送信すると、そのジョブは Fiery サーバーの標準 JDF ワークフローで処理され、Command WorkStation で管理されます。

JDF を入力形式として指定するには、入力形式ダイアログボックスで JDF を選択します。

プリフライト

プリフライトは、Hot Folder に送信されたジョブを対象に、最も一般的に発生するエラーをチェックして、コストがかかる印刷エラーを低減します。プリフライトは、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition の機能です。

プリフライトチェックを行うには、Hot Folder に次のことが求められます。

- Fiery サーバーに接続され、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition が有効になっている。
- プリフライトが有効になっている (Hot Folder が直接接続をジョブアクションとして指定している場合、プリフライトは利用できません)。

プリフライトは、プリフライトが有効になっている Hot Folder の設定に基づいて、指定されたアクションを実行します。プリフライトは、次のエラーをチェックします。

- フォント - 不明のフォント、および Courier フォントの置換有無をチェックします。
- スポットカラー - 不明のスポットカラーをチェックします（不明のスポットカラーは、Command WorkStation の「スポットカラー」で追加できます）。
- 画像解像度 - 指定値未満の画像の解像度をチェックします。
- バリアブルデータ印刷リソース - 不明のバリアブルデータ印刷のリソースをチェックします。

特定のレコード数のチェックを選択できます。このオプションを選択すると、必要以上にプリフライトの処理に時間がかかるのを避けることができます。

- ヘアライン - 指定値未満のヘアライン幅をチェックします。
- オーバープリント - オーバープリントをチェックします。

プリフライトは、PostScript、PDF、EPS、PPML、および Creo VPS ファイル形式をサポートしています。プリフライトは、TIFF および PCL ファイル形式をサポートしていません。

プリフライト設定を指定する

プリフライト設定を指定すると、ホットフォルダーに送信されるすべてのジョブからエラーをチェックできます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ホットフォルダーをダブルクリックしてホットフォルダー設定ウィンドウを開きます。
- 2 次のいずれかを行います。
 - プリフライトを選択し、編集をクリックしてプリフライト設定ウィンドウを開きます。
 - または、プリセットメニューからプリセットを選択して、プリセットに保存されている設定の組み合わせを自動的に選択できます。プリセットに必要なすべての設定が含まれている場合は、手順 6（31 ページ）に進みます。
- 3 チェックするエラーを指定し、そのエラーの通知レベル（重大または警告）を設定します。
- 4 重大なエラーを最初に検出した時点でエラーチェックを停止する場合は、1 つ目のエラーでプリフライトを中止を選択します。
- 5 設定を再度使用する場合は、プリセットリストから保存または別名保存を選択します。プリセットを削除するには、プリセットを選択し、プリセットリストから削除を選択します。
- 6 OK をクリックして、ホットフォルダー設定ウィンドウに戻ります。
- 7 重大エラー発生の場合メニューから、重大なエラーを少なくとも 1 つ検出したときにホットフォルダーで実行するアクションを選択します。次のいずれかをクリックします。
 - 待機 - ジョブを待機キューに送信します。ジョブは Fiery サーバーのハードディスクにスプールされ、以降の印刷のためにキュー内に保持されます。
 - 処理後待機 - ジョブを処理した後、処理済みジョブを以降の印刷のために待機キューに配置します。
 - プルーフ印刷 - ジョブを処理して 1 部印刷します。このアクションは、ジョブで呼び出された部数を印刷する前に、ジョブ出力を確認する際に役立ちます。
 - ジョブアクションを使用 - ホットフォルダーの設定で指定されたジョブアクションを実行します。
- 8 OK をクリックして設定を保存します。

バックアップ/復帰

バックアップ/復帰機能を使用すると、システムのすべてのホットフォルダーとその設定のバックアップを作成できます。

バックアップ/復帰機能を使用すると、次のことが行えます。

- 個別のバックアップを作成できます。ホットフォルダーとその設定をバックアップから復帰できます。
- バックアップアーカイブを作成できます。特定の日のホットフォルダーとその設定に復帰するために使用できます。
- Hot Folders とその設定を別のシステムまたはシステムグループにコピーできます。(この方法を使用すると、共同作業する複数のユーザーや、ネットワーク上でホットフォルダーを共有する複数のユーザーに対して、Hot Folders を同じ設定ですばやく構成できます)。

バックアッププロセスでは、圧縮 (.fbf) ファイルによるすべてのホットフォルダーのコピーが作成されます。これには、次の設定で保存されたシステム上のすべての Hot Folders が含まれます。

- ホットフォルダーの設定 (フォルダー名と説明)
- ネットワーク設定 (サーバー名およびジョブアクション)
- ジョブのプロパティの設定 (ホットフォルダーに設定された印刷設定または面付け設定)
- 入力形式の設定 (ホットフォルダーに設定されたフィルターとアプリケーション固有の形式)

バックアップにはホットフォルダーの状況 (アクティベート済み/アクティベート解除) が保持されます。

ホットフォルダーをバックアップした後、自分のシステムや別のシステムにホットフォルダーとその設定を復帰できます。通常は、Hot Folder をオリジナルと同じ場所に復帰します。そうしないと、同じ名前を持つ Hot Folder が複製されることになり、そのホットフォルダーも Fiery Hot Folders コンソールに表示されます。

⚠ 重要: バックアップ/復帰機能を使用してバックアップが作成してある場合には、そのバックアップを使用して、バックアップに含まれている削除済みホットフォルダーを復帰できますが、送信されたジョブのオリジナルファイルは復帰されません。

オリジナルファイルのバックアップ

ホットフォルダーの下位フォルダー内にあるオリジナルファイルはバックアップに含まれません。デフォルトで、ホットフォルダーの下位フォルダーは、オリジナルファイルのアーカイブ先です。

ホットフォルダーが削除された場合に備えて、オリジナルファイルをバックアップするには、バックアップ先としてホットフォルダー以外の場所を指定します。

⚠ 重要: 別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。

環境設定でオリジナルファイル保存場所オプションを設定すると、ホットフォルダーによって自動的に生成されるフォルダーではなく、別の場所をオリジナルファイルのアーカイブ先として指定できます。別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。詳細は、[ホットフォルダーの環境設定を指定する](#) (5 ページ) を参照してください。

ホットフォルダーのバックアップ

Fiery Hot Folders コンソールからバックアップ機能を利用します。プロセス全体を指示する別ウィンドウが開きます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ファイル > バックアップ/復帰を選択します。
- 2 バックアップをクリックし、次へをクリックします。
- 3 次のバックアップ設定を指定します。
 - ファイル名 - デフォルトのファイル名をそのまま使用するか、新しいバックアップファイルの名前を入力します。
 - 場所 - 圧縮ファイルを保存する場所を設定します。
複製を作成するのではなく、既存のバックアップファイルを置き換える場合は、既存のファイルと同じ場所を設定し、同じファイル名を指定する必要があります。バックアップを開始する前に、既存のファイルを置き換えるかどうかの確認が表示されます。
 - ファイル名に日時を追加 - ファイル名に現在の日付を追加します。このオプションを使用すると、バックアップファイルの名前にその作成日を追加して一意のファイル名を自動的に生成できます。
- 4 次へをクリックします。

バックアップの概要が表示され、バックアップファイル用に指定した場所へのハイパーテキストリンクが表示されます。バックアップの概要には、ホットフォルダーごとに、バックアップが成功したかどうかが表示されます（成功した場合は緑のチェックマーク、失敗した場合は赤の「X」が表示されます）。

オリジナルファイルのバックアップ

バックアップにオリジナルファイルは含まれません。そのため、オリジナルファイルをバックアップするには、オリジナルファイルをホットフォルダー以外の場所に保存する必要があります。ただし、別の場所を指定すると、すべてのホットフォルダーのすべてのオリジナルファイルがその共通の場所に保存されます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、編集 > 環境設定を選択します。
- 2 共通をクリックして、オリジナルファイルを保存する場所に移動します。

ホットフォルダーを復帰する

復帰機能を使用して、ホットフォルダーとその設定を自分のシステムや別のシステムに復帰できます。

- 1 Fiery Hot Folders コンソールで、ファイル > バックアップ/復帰を選択します。
- 2 復帰をクリックし、次へをクリックします。
- 3 参照をクリックし、ホットフォルダー復帰先の場所を指定します。
- 4 復帰を試みるホットフォルダーと同じ名前を持つ既存の Hot Folder が復帰先にあり、それでもホットフォルダーを復帰する場合は、復帰を試みるホットフォルダーに別の名前を指定します。

メモ：名前を変更する場合、Hot Folders アプリケーションは、オリジナルのフォルダー名の先頭に「名前の変更」を追加したデフォルトのフォルダー名を提供します。

5 次のいずれかをクリックします。

- 特定バックアップから復帰をクリックし、バックアップファイルを参照して見つけます。
- 最新のバックアップから復帰をクリックして一覧から選択します。

6 次へをクリックします。

7 復帰の概要を確認し、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのホットフォルダーの復帰が成功した場合には、OK をクリックします。
- 一部またはすべてのフォルダーが復帰に失敗した場合には、再試行をクリックします。

再試行ボタンは、復帰できなかったフォルダーが存在する場合にのみ表示されます。再試行を行うと、新しいファイルが復帰します。

メモ：すばやく利用できるように、復帰概要ウィンドウには、ホットフォルダーの場所へのハイパーテキストリンクが表示されます。

Hot Folders をトラブルシューティングする

Hot Folders アプリケーションで問題が発生した場合は、いくつかのトラブルシューティングオプションを利用できます。

Fiery サーバーが応答しない

• 次の操作を行ってトラブルシューティングします。

- プリンターの電源がオンになっていることを確認します。

プリンターの電源がオフになっている、あるいは節電モード機能が動作している可能性があります。

- プリンターが接続されていることを確認します。

管理者またはオペレーターが印刷の一時停止を選択している場合、印刷の再開が選択されるまで印刷ジョブは再開されません。

- Fiery サーバーがネットワーク上に存在することを確認します。

詳細は、[Fiery サーバーにホットフォルダーを接続する](#) (3 ページ) を参照してください。

- サーバー名や IP アドレスが変更されていないことを確認します。

IP アドレスやサーバー名が変更されている場合、システム管理者は、フォルダーのプロパティを編集して、新しいサーバー名または IP アドレスに再接続しなければならないことがあります。また、別の Fiery サーバーに接続することもできます。詳細は、[既存のホットフォルダーを別の Fiery サーバーに接続する](#) (4 ページ) を参照してください。

ホットフォルダーが Fiery サーバーに接続できない

- 次の確認を行います。
 - Fiery サーバーの電源がオンになっていることを確認します。
 - ホットフォルダーがアクティベートされていることを確認します。
 - 全ホットフォルダー停止が有効になっていないことを確認します。
全ホットフォルダー停止を選択している場合、ジョブは処理されません。すべてのホットフォルダーを再開するまで、すべてのホットフォルダーが無効です。追加した Hot Folder も無効です。詳細は、[すべてのホットフォルダーを停止して再開する](#)（6 ページ）を参照してください。
 - ホットフォルダーがアクティベートされている場合には、Command WorkStation など別のユーティリティを使用して接続を試みます。
他のユーティリティが接続されていない場合は、Fiery サーバーに関する問題が発生することがあります。この場合、接続が有効であることを確認します。フォルダーのプロパティを開き、サーバー名への IP アドレスを変更します。
 - Mac OS で、サーバー名を使用して接続する場合は、システムに DNS 名の検索機能が設定されていることを確認します。この機能が設定されていない場合は、Fiery サーバーの IP アドレスを使用します。DNS 名の検索機能を有効にするには、ネットワーク管理者に連絡してください。

「Hot Folders コンソール」にホットフォルダーが表示されない

- Fiery Hot Folders コンソール以外のデスクトップから Hot Folder の名前を変更していないことを確認します。詳細は、[ホットフォルダーの名前を変更する](#)（7 ページ）を参照してください。

オリジナルファイルが見当たらない

オリジナルファイルが、コピーを作成することなく移動された可能性があります（ソースファイルと同じディスクパーティション上のホットフォルダーにファイルをドラッグすると、ファイルはコピーではなく *移動*されます）。

- 下位フォルダーの内容をチェックします。詳細は、[オリジナルのジョブファイルにアクセスする](#)（8 ページ）を参照してください。

ジョブが失敗した

フォルダーのプロパティがファイルと一致していない、フォルダーがそのファイルの種類に対応していない可能性があります。

- 1 ログにアクセスしてファイルの状況を表示します。
- 2 フォルダーのプロパティがファイルと一致し、フォルダーが対応していないファイルをダウンロードしていないことを確認します。たとえば、色分解フィルター用に設定されたホットフォルダーに JPEG ファイルをダウンロードすると、ジョブは失敗します。

最適化されたパフォーマンスを維持する

Hot Folders アプリケーションは、下位フォルダーにオリジナルファイルをアーカイブしますが、下位フォルダーはディスク容量がすぐにいっぱいになることがあります。

- 次の操作を行います。
 - オリジナルファイルのアーカイブを下位フォルダーに残す必要がない場合は、アーカイブの一部またはすべてを削除してディスク容量を解放します。

デフォルトでは、下位フォルダーは、ホットフォルダー内に作成されますが、オリジナルファイルの場所は変更できます。

- 「環境設定」の原稿ファイル消去を設定して、オリジナルファイルを定期的に削除するスケジュールを設定します。